



以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

31

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

森林づくり、森林の恵みの利活用 先進地に聴く
「森林の恵みで持続可能なくらしづくり」
北海道下川町

「緑の募金付き手作り桶」 9月1日より販売開始
第40回全国育樹祭(平成28年秋)京都府にて開催決定

「伏条台杉 —平安京の建築材提供、北山台杉の原型・元祖—」
(丹波 井ノ口山 2014年5月5日撮影)
只木 良也氏

森林づくり、森林の恵みの利活用

森林の恵みで持続可能なくらしづくり ～北海道下川町～



象の鼻展望台から

下川町は北海道北部に位置する町面積の約 9 割が森林の内陸の町。スキージャンプの葛西紀明選手などの出身地としても有名ですが、この町で進められている持続的な森林経営や木質バイオマスエネルギー利用の取組が、近年全国から注目を集めています。

持続可能な森林経営

下川町はかつて鉱山で栄えましたが、休山と共に人口が激減。地域を支える雇用・産業創出の必要性から、町内の豊かな森林資源に注目し、町をあげて林業・林産業振興に

力を注いできました。持続可能な森林産業による人々の良質なくらしづくりを目指す中で、「環境モデル都市」、「環境未来都市」、「森林総合産業特区」、「バイオマス産業都市」等の指定、認定を受けました。



地域熱供給施設（小学校・病院）

【循環型森林経営】

町では昭和 28 年(1953 年)から機会あるごとに国有林の払い下げを受け、欧州の先進的事例に学びながら、持続可能な森林経営を確立してきました。毎年約 50ha の伐採と植林を 60 年サイクルで繰り返す方法で、平成 15 年には北海道で初めて FSC 認証[※]を取得しました。

【森林資源を余すことなく有効活用】

森林から出る材は間伐材も含め一般製材、集成材、円柱材、木炭、木酢液等として活用するほか、伐採時などに出るトドマツの枝葉までアロマオイルとして活用します。

下川町 Data

- 人口約 3,500 人 高齢化率 38% ●面積：64,420ha ・町有林経営面積：4,680ha。うち人工林率 65%。
- 町内の林業・林産業従事者数：約 270 人
- 当協会と平成 25 年 8 月に「モデルフォレスト・パートナーズ協定」を締結。森を守り活用していくための情報交換などを行っている。



一の橋集住化住宅

●エネルギー自給で雇用創出

さらに下川町が目指すのは、木質バイオマス等によるエネルギーの自給。冬はマイナス 30 度以下になる当地では、光熱費は年間 12 億円超。エネルギーを自給できるようになれば、町の外に出て行ってしまうこうしたお金を町内で循環させ、雇用創出につなげることができるのです。

【木質バイオマスで CO2 とコストを削減】

町では平成 16 年から木くず等を原料とする木質ボイラーを導入し、今では全公共施設の暖房の約 42%を賄うまでに。年間約 1,000 トンの CO2 排出量と 1,420 万円の燃料費をカット。浮いた財源は、ボイラーの更新や中学生までの子ども医療費の無料化などの財源に充てられます。

【集住化で高齢者とエネルギー効率に配慮】

高齢者の安全・便利な生活の確保と同時にエネルギーを自給するため、住民が集まって住む「集住化」を推進。平成 25 年 5 月には、町内で最も高齢化が進む「一の橋」地区にエネルギー自給型の集住化エリアが完成しました。26 戸の住宅や併設・隣接の施設でも、給湯・暖房は全て木質バイオマスボイラーから供給され、電力の一部は太陽光発電で賄われています。

こうした取組が注目を集め、現在では町の森林組合への就職に 20 人もの若者が待機、平成 25 年度には国内外から 1,200 人もが視察に訪れました。町では、今後もその豊かな森林の恵みを最大限に活かし、住民の良質で持続可能なくらしづくりを進めていきます。

※ FSC 認証：(FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会) による森林認証。森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなう、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられる。

森林の利活用を通じて、 人々の心豊かな暮らしと 持続可能な地域づくりに貢献

—NPO 法人森の生活—

NPO 法人森の生活は、下川町を拠点に、「森林の利活用を通じて人々の心豊かなくらしと持続可能な地域づくりに貢献する」をミッションに活動する団体です。下川町が進めている森林資源を無駄なく活かす様々な取り組みとも連携しながら、森の生活では、主に「森林空間」の持つ可能性を引き出す活動に取り組んでいます。例えば、森林散策を通じて心身の健康に役立てる森林療法プログラム「森林セルフケア」や、トドマツのエッセンシャルオイルづくりを、原料となる枝葉を採るところから体験できる「蒸留体験」を観光客のみならず提供しています。自炊可能で長期滞在にも向いているコテージ型の交流施設「森のなかヨッククル」(<http://www.forest-life.org/yokkuru/>)の管理運営も行い、下川に滞在しながらゆっくりと森を楽しめる機会を提供しています。また、下川町に 1 校ずつある幼児センター・

小・中・高校を対象に、15 年一貫で授業の中で森林環境教育を行う取り組みや、市街地近くにある美桑が丘という森をみんなで

上／美桑が丘での「みくわの日」の様子
下／森林環境教育の様子

憩える場にする

ために、地域の人たちと一緒に手入れしたり、月に 1 回、美桑が丘で自由に過ごす「みくわの日」を開催したりしています。

このように、森を暮らしのなかに活かす文化を、未来に向けて新しい形で創造し、根付かせる活動に取り組んでいます。

(NPO 法人森の生活 代表理事 麻生 翼)





第2回「京都緑のこどもサミット」を開催しました

7月30日(水)、31日(木) 京都府立るり溪少年自然の家

未来を担う子どもたちに森の面白さや大切さを感じてもらい、大人になっても森や緑を大切にすることを継続してもらうため、府内11の「緑の少年団」が一堂に会し、交流・学習する第2回「京都緑のこどもサミット」を開催しました（主催：京都府、京都府緑の少年団連絡会、当協会）。

今年は、当協会と「モデルフォレスト・パートナーズ協定」を締結している北海道下川町の小学生6名も参加し、総勢150名が、地域の枠を超えた交流を行うことができました。

みんなで記念撮影



7月30日(水)

- ・活動発表(府内各地域の代表団5団、下川町)
- ・野外炊飯(カレーライス)
- ・キャンプファイヤー
- ・天体観測

自然観察ツアーの様子



7月31日(木)

- ・自然観察ツアー

【子どもたちの感想】

- ・色々な団の活動を知ることができてよかった。(活動発表)
- ・火は熱かったけど、みんなで協力しておいしいカレーができたからよかった。(野外炊飯)
- ・みんなで踊ったりして、仲が深まったり、友達が新しくできてよかった。(キャンプファイヤー)
- ・色々な星を教えてもらったり、土星がみられてよかった。(天体観測)
- ・山の中の道は危ないところがあったけど、自然のことが色々わかったし、クイズが楽しかった。(自然観察ツアー)



平成26年度緑化運動ポスター・愛鳥週間

ポスターコンクールを実施しました

緑化運動ポスター・愛鳥週間ポスターコンクールを実施し、応募点数2,830点（緑化運動ポスター

1,341点、愛鳥週間ポスター1,489点）の中から合わせて400点選ばれました（最優秀賞各2点、優秀賞各4点、奨励賞各6点、努力賞各10点、佳作各178点）。

9月20日(土)に京都府立植物園 植物園会館2階にて奨励賞以上の入賞者の皆さんを対象にした表彰式を開催し、25日(木)までの期間、作品展示を行いました。

本誌では2回に分けて、奨励賞のうち当協会理事長賞を受賞した作品を紹介します。

京都モデルフォレスト協会理事長賞
受賞作品【緑化運動ポスター】



木津川市立棚倉小学校5年 あさつちゆき 浅津千幸さん



京都市立山科中学校3年 おおしすさく 大橋春咲さん



ミーティングの様子

企業等参加の森林づくりの発展に向けて ミーティングを開催

8月22日（金）に御所西京都平安ホテルにて「企業等参加の森林づくりミーティング」を開催し、協会会員で森林づくりに取り組む11企業・団体14名の方にご参加いただきました。

ゲリラ豪雨が多発する中、土砂災害防止機能等の公益的機能のある森林づくりを、平成28年度の府内での育樹祭開催を一つの機会として更に進めていくために、事例報告と意見交換を行いました。



木でつくった製品の展示。中央が京パレット



ホリモク(株)の木製品

事例報告

『三洋化成の森』づくり活動

三洋化成工業株式会社 山田明子氏

（要旨）

活動地は和束町の湯船森林公園内（約44ha）。年2回の全社行事のほか、新入社員研修で森林整備を行っている。また、少人数で森林整備を行うサポーター会も月1回程度（冬季以外）実施。このサポーター会で全社行事等の準備も行う。

今年度から物流管理・梱包資材製造販売業のエースジャパン（株）とコラボし、自社の森林整備活動で出た間伐材から作ったパレット（京パレット）を自社内で使用する取り組みを試験的に行う。

地元との交流促進のため、本社食堂で和束茶を販売しているほか、活動時の昼食の食材や弁当はできるだけ地元から購入。また、「茶源郷まつり」にブース出展したり、地元住民らが行うまちづくり交流会や森林整備活動にも積極的に参加している。

参加者からは、「自社内だけでは思い付かなかったいろんな取組を知ることができた」といった感想をいただきました。今後も協会では、森林づくりに取り組む企業や団体の皆様に役立つ企画を行っていきたいと考えています。



○参加者からの意見

【悩んでいること、課題など】

- 担当が少人数。
- 参加者が固定化しているのでモチベーションアップを図りたい。

【良かったこと、工夫していること】

- 大学と連携し、多くの学生が来てくれている。
- 担当者は企画から人集めまで大変だが、良い経験となっている。
- 毎回、活動のテーマを設定して実施している。
- 活動場所周辺を歩き、地元の人と接する機会を持つようにしている。

【これから取り組みたいこと、希望】

- 他の企業の森林づくり活動にオブザーバーとして参加したい。
- 専門家の協力を得て、どのような森林を目指すのか考えたい。
- 木材パレットを利用したい。
- 三洋化成工業（株）の取組を参考に、地元との繋がりをつくっていききたい。

古屋地区は、綾部市東部の奥上林^{おくかんばやし}地に位置する、住民が5戸6人の京都府内で最も小さな集落の一つです。地域内には樹齢数百年のトチの木が620本（現在調査中）確認されるなど豊富な自然が残り、「綾部市水源の里条例」に基づく「水源の里」にも位置付けられています。

高齢化・過疎化が進む中、廃村にたくないとの強い思いから、トチの実を活用した特産品の開発、製造・販売を行うことになりました。トチの木の保全やトチの実の収穫作業は住民だけでは難しいため、平成19年度からボランティアを募集して実施しています。



古屋地区

トチの木を活かした村づくり

～自主応援組織が応援、幅広い参加者に「楽しかった」思い出を提供～

今年は8回トチの実拾いが行われ、その第4回目・9月13日（土）分に参加しました。参加者は例年遠くからも来られますが、今回も南は京田辺市、府外では滋賀県の大津市からも参加され、総勢50名弱でトチの実拾いを行いました。また、今回は古屋でも一番高所に位置する「森」というところまで1時間ほどかけて登りました。今年は豊作だそうで、トチの大木が点在する場所にたくさん実が落ちており、ついつい夢中になって収穫作業を楽しみました。多い人は一人で8キロを超える実を拾い、全体で177キロの収穫となりました。今年の最終の収穫量は1,234キロで、今までで最高とのことでした。

多くの地域、団体等が様々な森林保全活動や自然体験学習会などを開いていますが、参加者が集まらなかったり、回を重ねるごとに人数が減少したり、メンバーが固定してしまったり、輪が広まらないなどそれぞれに悩みも多いようです。

古屋は、京都市内を中心に考えるとかなり遠方で交通の



栃の実拾いの様子



どれくらいの重さかな？

便も悪く、多くの参加者を集めるのには条件が厳しいようにも思えます。しかしながら、回を追うごとに参加者の輪が広がり、今では毎回50人ほどの人が参加していると聞きます。元気なおばあちゃんに会いたいと何度も訪ねて来る人も多いようです。この活動には、ボランティアで参加してきた人たちによる自主応援組織として結成された「古屋でがんばろう会」が自治会と連携しながら下支えをしていることもあります。それだけではないようです。

今回引率して参加した小学1年生から4年生までの子どもたちや、過去に参加した高校生、中学生なども含めて、いずれも「楽しかった、また行きたい」と喜んでいました。幅広い年齢層の参加と参加者の満足度をどう得るのかといったことがこれらの悩みに対する一つのヒントになるのではないのでしょうか。

（チーム以森伝心 森 稔、井上 和彦）

「緑の募金付き手作り桶」9月1日より販売開始!

株式会社樽徳商店

当協会賛助会員で、チーム以森伝心(本誌作成ボランティアチーム)メンバーである宮本博司さんが代表取締役を務める株式会社樽徳商店が、「緑の募金付き手作り桶」の販売を開始されました。

樽徳商店は明治5年創業の酒樽屋。昭和40年代初め高度成長の流れの中、職人の高齢化もあいまって酒樽造りの幕を閉じ、以降ドラム缶等の容器類や緩衝材等の包装資材を取り扱ってきました。30年間携わった川の仕事を辞め、平成18年に家業を継いだ宮本さんは、ふと木の桶・樽を造りたいと思い、京都の有名老舗店で修業を重ねたのち、国産のスギなどを使った桶・樽づくりを開始されました。

今回の商品では、日本の木を使うことで日本の森の4割を占める人工林の保全に繋げ、更に売上の1%を「緑の募金」に寄付することで府内の森林づくりや緑化推進への貢献を目指されています。



宮本博司さん



手作りおひつ 12,000円。
ほかにも皿、ワインクーラー、酒器、風呂桶など

心を込めて宮本さんが作る、香りと木目が美しい「緑の募金付き手作り桶」、ぜひお試しください。

- ご購入はHP「京都手作り桶屋 桶徳」で検索
問合先：株式会社樽徳商店(京都市下京区) 電話 075-371-2023
- 緑の募金付き商品の企画をお考えの企業・団体様は、当協会までご相談ください
(連絡先はp.8 下参照)。

森林の楽しみ方

チーム以森伝心は、京都モデルフォレスト運動を推進し、京都の森林づくり活動を広げていくためのサポータークラブです。今号では、チーム以森伝心メンバーが皆様におすすめの「お気に入りの森林」をお届けします。

私のお気に入りの森林 …京都市北区 船岡山…

京都市北区にある船岡山は標高112メートルほどの小さな山ですが、山頂からは京都市内を一望できる隠れた観光スポットです。応仁の乱の際に西軍が船岡山城を建築したことが「西陣」の地名の由来になっています。また、明治8年(1875年)には織田信長を祭る建勲神社が創設され



写真1 建勲神社参道周辺の森の様子

るなど、歴史の名所でもあります。周囲を住宅地に囲まれており、地域の住民からは身近に自然を感じることが出来る散策場所として親しまれています。



植生はマツやアラカシ等の照葉樹があり、帰化植物も少なく京都の植生が残っていて自然観察会なども行われています(写真1)。秋に木陰の参道を登っていると、周囲にどんぐりが落ちる音が聞こえてきます(写真2)。平成7年(1995)には京都府の『京都の自然200選』に指定されています。

写真2 参道にはクヌギやアベマキなどのどんぐりが。

〔チーム以森伝心 西本雅則〕

第40回全国育樹祭(平成28年秋) 京都府にて開催決定

京都府及び当協会は、モデルフォレスト運動に取り組み始めて10周年、京都府立林業大学校の開校から5周年の節目の年となる平成28年秋の全国育樹祭の開催を目指してきましたが、去る8月8日(金)、(公社)国土緑化推進機構の理事会にて、開催が正式に決定しました。

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次世代へと引き継ぐことの大切さを伝えるために、昭和52年以来、毎年秋季に各都道府県持ち回りで開催されている国民的な緑の祭典で、皇族殿下による樹木のお手入れ行事のほか、式典行事、併催行事等が行われます。

このたびの開催決定を受け、9月5日(金)から11月14日(金)の間、第40回全国育樹祭の「大会テーマ」と「シンボルマーク」を募集しています。

詳しくは、以下の京都府HP内モデルフォレスト推進課ページ(<http://www.pref.kyoto.jp/model-forest/news/boshu.html>)をご覧ください。



式典行事の様子 第36回全国育樹祭(埼玉県)

事務局からのお知らせ

活動報告

- 平成26年度は協会情報誌「以森伝心」を年3回、8ページで発行し、森づくりや森の恵みの利活用の事例など、昨年度よりも充実した紙面をお届けしたいと考えています。以森伝心作成ボランティア「チーム以森伝心」の皆さんと共に、良い紙面を目指します。会員の皆様のご感想をお待ちしています。

- 当協会では、平成28年の全国育樹祭に向け、モデルフォレスト運動のすそ野をさらに拡大するため、平成25年度から京都府や関係機関とともに、府内一斉森づくり活動期間「モデルフォレストDAY」(10月～11月)を設定しています。この期間の森づくり活動の実施・参加にご協力ください。



平成25年度の森林体験ツアーの様子

- 9月1日～10月31日は緑の募金募金運動強化期間です。

緑の募金運動へのご協力をよろしくお願いいたします。

- 企業等参加の森林づくり、行事案内、緑の募金、「森林・山村多面的機能発揮対策」事業のお知らせ等、協会の最新情報をWebページに掲載しています。ぜひご覧ください。

京都モデルフォレスト協会

検索

【今後の予定】

10月18日(土)

- 第3回「Club J-WESTの森 森づくりイベント」
(スチールの森京都(南丹市))

- 第15回竹の環プロジェクト「竹林保全ボランティア」
(京都大学桂キャンパス)

11月4日(火) 2014モデルフォレストDAY
国際シンポジウム

(京都ガーデンパレス(京都市上京区))

11月9日(日) 森林体験ツアー(京都市北区雲ヶ畑)

11月30日(日) 森づくり体験活動(京都市右京区梅ヶ畑)

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL & FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> facebook <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2014年10月発行

デザイン：自然堂(じねんどう)株式会社